

平成26年度発掘調査遺跡の紹介

堂 古 遺 跡

(上越市大字米岡字堂古)

堂古遺跡は、高田平野のほぼ中央、米岡集落の北側に位置し、飯田川左岸に形成された標高約14.5mの自然堤防上に立地します。一般国道253号上越三和道路事業に伴い、調査面積約6,000㎡を平成26年4月から発掘調査しています。調査では、古墳時代から中世(室町時代)までの遺物が出土していますが、主体は室町時代(14~15世紀)で掘立柱建物・井戸などが見つかり集落が営まれていたことが明らかになっています。

掘立柱建物は、9棟ほど見つかっています。総柱建物や庇付建物などが建物軸を揃えて並びます。総柱建物は倉庫で、庇付建物は住まいと考えられます。建物の周りには井戸や竪穴状遺構が見つかっています。井戸は、ひとつの建物のまわりに3~4基ほど存在し、これまで25基近く見つかっています。全て素掘りで、上端径が1m前後で、深さは2mを超えます。埋土から稀に珠洲焼などの遺物が出土しました。また、建物群の南西側で焼けた骨片が出土した焼土土坑や建物群西側で墓と考えられる長径1.5m前後の長方形土坑が点在しています。建物周辺に、墓域を形成していた可能性があります。これらの遺構集中区の西側には最大上端幅4m、深さ1.3mの大溝が見つかっています。この溝は、集落の境界に位置しているのではと考えています。

遺物は、中世の土師質土器・珠洲焼・青磁・白磁や石製の硯・砥石、鉄製の刀子・鎌などが出土しています。

遺跡は、室町時代の農村集落の一部であると考えられます。西側に隣接する下割遺跡の成果と共に広く当時の景観が復元できると考えられます。

(飯坂盛泰)



素掘りの井戸



発掘調査風景



中世の掘立柱建物



焼けた骨片が出土した焼土土坑



大溝

たから だ 宝 田 遺 跡

(柏崎市大字宝田)

宝田遺跡は国道8号柏崎バイパス事業に伴い、平成25年度から調査を行っています。今年度は2年目に当たり、古代と中世の水田跡を2面調査しています。遺跡は柏崎平野東部の鯖石川左岸の沖積地の水田に立地し、標高は約4.5mです。

中世の調査では、水田そのものは後世の耕作によって失われていましたが、耕作時の畦畔（あぜ）底面の痕跡が見つかりました。痕跡はほぼ東西南北を向き直線的に残っていました。間隔は4～6mで、畦畔によって水田が正方形や長方形に区画されていたようです。また痕跡の一部には途切れるか所があり、そのうちのいくつかは水を取り入れるための水口と考えられます。その他、水路とみられる溝や井戸、土坑も発見されました。土坑は平面形が長方形のものが多く、長さは1.5～2.5mくらい、幅は1～2mくらいです。深さは20～60cmくらいでした。土坑の中の土を観察すると、掘った後自然に埋まる前に意図的に埋め戻されています。これらの土坑がどのような目的で掘られたものか、まだ分かっていませんが、水田との関連も想定しています。遺物は水田遺跡のため集落遺跡に比べ少なく、珠洲焼の甕や土師質土器の皿などが出土しています。

古代の調査では、中世のものほど遺存状況は良くありませんが、断片的に畦畔の痕跡が見つかりました。断片的な痕跡のため、畦畔の間隔や水田の大きさ、水田の形などは不明です。また中世の調査で見つかったような土坑も見つかり、いくつかは埋め戻した後同様な位置に掘り直しているものもありました。

今までの調査で、柏崎平野の水田の様子が少しずつ浮かび上がってきました。コメどころ新潟を代表するような水田地帯の景観が、当時から広がっていたことが分かります。

(株式会社ノガミ 秋山真好)



中世の水田跡



中世の水田跡の水口



中世の水田跡と土坑



同じ場所に掘り直された古代の土坑



意図的に埋め戻された中世の土坑断面

新町遺跡

(阿賀野市大字百津字新町)

遺跡は阿賀野川^{あがのがわ}右岸の自然堤防に立地しています。国道49号阿賀野バイパスの工事に先立って、今年の4月から10月までの予定で6,750㎡の発掘調査を行っています。新町遺跡を含む旧水原町^{すいばら}周辺では、昭和初期に大規模な土地改良が行われ、桑畑^{くわばたけ}が広がる地帯が約850haの水田に生まれ変わりました。その工事に際し遺跡の土も削られてしまい、現在の水田耕作土などを40cmほど取り除くと、中世の建物や井戸、溝などが姿を現します。遺構の検出面は標高約6.5～6.7mです。

遺跡の中央に調査区を横断するように2条の溝が平行にありました。溝の上幅は約2mで間隔は約18mもあります。溝に挟まれた部分は、遺構が極端に少ないことから建物などを造らない場所と認識されていたと考えられ、道の可能性が高いと見られます。2条の溝は道の側溝とみられ、この道を境に南北に建物や井戸が築かれます。北側には2間×3間など小規模な建物が7棟あります。建物の向きが道の方向と一致していることから同時性が窺えます。南側の地区では井戸の数に比して、柱穴がとても少なく、建物が建ちません。これは以前の開田で旧地表と共に柱穴もかなり削り取られたためと考えられます。

遺構は、井戸が北側に43基、南側に21基、道に伴う溝脇に2基の合計66基ありました。他に土坑が49基、溝が建物を区画する溝も含めて10条あり、道と直交あるいは平行しています。

直径約5mもある井戸は、検出面から80cmほど下げると、四角い木枠（井戸側）が出てきました。当時は地表まで出ていたものですが、上部は朽ちていました。掘り進めると井戸側の外に葦などの植物を厚く添えてあります。大きく掘って井戸側を据えて、その後で周囲に土を埋め戻す時、土の重さで井戸側が変形しないように配慮したものかも知れません。

遺物は井戸や溝から出土しました。珠洲焼・越前焼・地元^{すずやき えちぜんやき}の北越窯産甕・瀬戸焼・朝鮮雑釉・青磁皿や椀・白磁皿・瓦質香炉^{ほくえつよう かめ}・茶道の風炉^{せとやき}、漆器椀・曲物、刀子・渡来銭・鉄滓、フイゴの羽口があります。珠洲焼や輸入陶磁器から15世紀後半を中心とした、数十年続く集落と考えられます。遺物包含層が削られているため遺物量は多くありませんが、茶道具や香炉、輸入陶磁器があることから、社会的階級の高い人が住んでいた村か屋敷の一部と考えられます。百年続かない村になぜ、こんなに多くの井戸が必要なのか、道の続きも今後、調べる必要があります。(田海義正)



遺構検出作業



井戸の木枠と周囲の埋め戻し土



井戸側に葦を厚く添えている



白磁皿と朝鮮雑釉皿 (右奥)

越後国域確定1300年

縄文時代の新潟県



越後国域確定1300年

新潟県埋蔵文化財センターで開催する行事

■企画展「遺跡が語る縄文時代の新潟県」(平成26年7月26日～12月7日)

越後国域が確定した和銅5(712)年から1300年目にあたる平成24(2012)年からの継続事業として、平成26年度は縄文時代をテーマとしてイベントを開催しています。

企画展は「遺跡が語る縄文時代の新潟県」と題して、新潟県埋蔵文化財センターのエントランスホールを第1会場、常設展示室の一部を第2会場として開催しています。

新発田市青田遺跡・南魚沼市五丁歩遺跡の県指定有形文化財を数多く見ることができるのも今回の展示の特長です。



第1会場(正面)

【第1会場】旧石器時代から始めて、縄文時代の終わりまでの土器・石器を時系列に沿って展示しています。1万年余り続いた縄文時代に使われた道具の変化を端的に知ることができます。



第1会場(展示の左から右へ、旧石器時代から縄文時代へと時間が進みます。)

【第2会場】縄文時代の漆工芸技術に関連する遺物、^{うろし}堅櫛・^{たてぐし}勾玉・^{まがたま}土製耳飾りなどの装飾品、^{みみかざ}籠などの編み物、建物の柱(年輪年代測定試料)、食料(魚の骨・木の実の殻などの食べかす)などを展示しています。土器や石器だけではわからない、縄文時代の多種多様な技術を知ることができます。なかでも漆工芸技術関連の展示が充実しています。新潟県における漆工芸技術のはじまりは、^{ながおか}長岡市大武遺跡から出土した縄文時代前期(今から約6,600年前)の漆紐にさかのぼります。一緒に出土した^{うろしひも}漆塗土器には、国内最古の「漆の焼き付け技法」が認められます。縄文時代の中でも最も漆工芸が華やかな時期を迎えるのは縄文時代後～晩期です。^{たいない}胎内市野地遺跡や^{しばた}新発田市青田遺跡の集落からは、^{あおた}堅櫛、腕輪、飾り弓など様々な漆製品が出土しています。

このほか、大武遺跡の土器を復元後初公開しています。



第2会場(入口)



胎内市野地遺跡
赤漆塗堅櫛

■リレー講演会

新潟県の縄文時代について概説します。

入館料・参加費無料ですが、**事前に参加申込が必要**です。電話・ファックス・メールのいずれかの方法で（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団にお申し込み下さい。

回	日程	タイトル・講師	定員	申込み受付期間 (定員次第締切)
第6回	10月5日(日) 13:00~15:00	「縄文時代の記念物」 宮尾 亨氏 新潟県立歴史博物館	80人	9/1~10/3
第7回	11月16日(日) 13:00~15:00	「概説① 新潟県における縄文時代のはじまり」 加藤 学 (公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団	80人	9/1~11/14
第8回	12月7日(日) 13:00~15:00	「概説② 新潟県における縄文時代の中ごろ」 高橋 保 (公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団	80人	9/1~12/5
第9回	1月18日(日) 13:00~15:00	「概説③ 新潟県における縄文時代のおわり」 古澤 安史氏 阿賀野市教育委員会	80人	9/1~1/16

(申込先) (公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
TEL: 0250-25-3981 FAX: 0250-25-3986 メール: niigata@maibun.net

巡回展「遺跡が語る新潟県の歴史」開催のお知らせ

越後国域確定1300年記念事業の一環として、平成24~26年度には新潟県教育委員会が発掘調査した遺跡の旧石器時代から平安時代の逸品を新潟県埋蔵文化財センターで展示しました。今回はその3年分の展示品を再構成して展示します。期間中には展示説明会や講演会を行います。ぜひ、ご参加ください。

なお、**講演会は新潟県立歴史博物館への申込みが必要**です。

【日時】 平成26年12月20日(土)~平成27年3月22日(日)
9:30~17:00

※毎週月曜、12月28日~1月3日休館(1月12日は開館、翌13日が休館)

【会場】 新潟県立歴史博物館 企画展示室

長岡市関原町1丁目字権現堂2247番2 電話: 0258-47-6130

【料金】 「遺跡が語る新潟県の歴史」展示の観覧、講演会は無料です。
(常設展は観覧料が必要になります。)

【交通】 バス: 長岡駅大手口7番線から「県立歴史博物館行き」約40分
自動車: 関越自動車道 長岡ICから5分 駐車場 184台



上越市延命寺遺跡
木製祭祀具

■講演会

講演会	日程	タイトル	講師	定員	申込み受付期間 (定員次第締切)
第10回 リレー講演会	2月22日(日) 13:30~15:00	「青田遺跡の暦年代から読み解く縄文時代の暮らし」	荒川 隆史 (公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団	150人	9/1~2/20
記念講演会	3月8日(日) 13:30~15:00	縄文時代の年代	小林 謙一氏 中央大学 文学部教授	150人	受付中

(申込先) 新潟県立歴史博物館講座係 TEL: 0258-47-6135 FAX: 0258-47-6136 メール: koryu@nbz.or.jp

■展示解説会

期日	時間	解説者	定員	申込み
1月17日(土)	11:00~12:00 14:00~15:00	(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団職員	なし	不要
2月28日(土)				
3月14日(土)				

県内の遺跡・遺物86

にけんぢゃや
二軒茶屋遺跡出土品 248点

(平成25年3月26日 新潟県指定有形文化財(考古資料))

(遺跡所在地：胎内市大字船戸地内 遺物保管：胎内市(胎内市遺跡資料室))

二軒茶屋遺跡は、新潟県北部に連なる櫛形山脈^{くしがたさんみゃく}北西側の丘陵端に位置します。標高は約20mです。縄文時代前期前半の遺跡で、10数基の土坑^{どこう}と多量の遺物が検出されました。住居跡は検出されませんでした。調査区外にあるのではないかと推定されています。

遺物には土器・石器、土製品・石製品があります。土器は煮炊き用の深鉢が多いです。土器の文様は、ループ縄文・羽状縄文を地文様として、爪形・列点・籠状^{へらじょう}等の刺突で文様が描かれるのが主体です。底部外面にも放射状の刺突で同心円が描かれています。全形を復元できる土器がほかの遺跡に比べて多い点でも注目されます。

石器は実用利器としての石鏃^{せきぞく}・尖頭器^{せんとうき}・両尖^{りょうせん}・七首^{あいくち}・籠状^{へらじょう}石器^{いしり}・石錐^{ませいせき}・磨製石斧^{すりいし}・磨石類^{とし}・砥石^{いしざら}・打製石斧^{だせいせき}・石錘^{せきすい}があります。石錘は漁網の錘で、平らな石の両側に紐掛け用の抉り^{えぐ}を入れたものです。この石器が約350点と数多く出土したことから、この遺跡では漁撈^{ぎょうろう}に関わる作業が行われていたと推測されます。このほか、鉄石英^{てつせきえい}(赤玉石)をすりつぶして赤色顔料に加工するのに使用したと推定される磨石類3点があります。

土製品には県内最古級の土鈴^{どれい}・土偶^{どぐう}のほか、粘土塊^{ねんどかい}、土器片錘^{どきへんすい}、土器片円(方)板^{とつき}などがあります。土鈴は直径約3cmで上部に突起が付いています。X線写真により内部に直径数mmの丸玉が15個以上詰まっています。土器片錘は石錘と同様に漁網の錘と推定されます。また、土器片円(方)板の一部はこの材料である可能性があります。

石製品には滑石製の玦状^{けつじょう}耳飾り^{みみかざ}とその未製品があります。

二軒茶屋遺跡の縄文時代前期前半の遺物は、遺存状態が良好な土器、利器のセットがわかる石器など日常の道具が充実しているだけではなく、玦状耳飾りの生産に関わる遺物や県内最古級の土鈴・土偶、赤色顔料が付着した磨石類などの稀少品^{せうしょうひん}があります。これらが県内で類例の乏しい初期定住化集落の様相を示すものとして極めて重要であると評価され、248点が県有形文化財(考古資料)に指定されました。参考文献・写真出典：中条町教育委員会 2003年『中条町埋蔵文化財調査報告27集 二軒茶屋遺跡 主要地方道中条紫雲寺線改修工事に伴う発掘調査報告書Ⅳ』



縄文土器 (口径20.0cm)



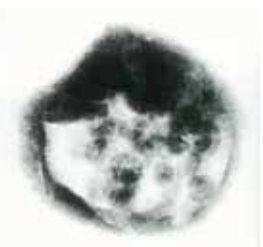
縄文土器 (器高26.7cm)



縄文土器 (器高29.0cm)



石器 (左上9.5cm)

土鈴
(直径約3cm・重さ15g、右はX線写真)

埋文にいがた No.88

発行 (公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1
TEL (0250) 25-3981
FAX (0250) 25-3986
E-mail: niigata@maibun.net
URL: http://www.maibun.net
印刷 株式会社ハイグラフィック